

第七十一回実朝忌俳句大会特選句

一般投句の部

平成三十一年三月三日

選者	作品	住所	氏名
星野 椿	替はる世へ鐘のひびきや実朝忌	茅ヶ崎市	長島 久江
々	大仏の手の平に乗る初雀	兵庫県	江見 巖
々	梅の香や路地の奥なる幕府跡	横浜市	藤川 和男
松尾 隆信	大様にタンカー行くや実朝忌	鎌倉市	小野 こゆき
々	実朝忌伊豆の小島に日矢差せり	静岡県	太田 和志
々	実朝忌けふ宮鳩は無垢の白	厚木市	恩曾川 太郎
宮坂 静生	沈む日はかならず昇る実朝忌	葉山町	杉山 通幸
々	実朝忌暁闇に星大きかり	横浜市	竹内 節
々	ふた片の風花添うてあひ触れず	北海道	齊藤 まさし
山川 幸子	全身で初日を抱く車椅子	千葉県	重田 忠雄
々	右府の海由比ヶ浜より初日の出	横浜市	加瀬 伸子
々	沈む日はかならず昇る実朝忌	葉山町	杉山 通幸

第七十一回実朝忌俳句大会特選句

大会投句の部

平成三十一年三月三日

選者	作品	住所	氏名
松尾 隆信	実朝忌雨の鳥居をくぐりけり	横浜市	斎藤 友子
々	尼寺の白梅息を吐くやうに	東京都	志磨 泉
々	右府の忌の大路を走る若き車夫	平塚市	中丸 しげこ
松田 美子	白梅を散らして雨の実朝忌	横浜市	日向 亮司
々	春の雨膨らんでいる段葛	東京都	東郷 淑子
々	鎌倉の文化を繋ぐ実朝忌	横浜市	原 久栄
宮坂 静生	寄す波のひとつひとつに春の音	横浜市	崎山 勢津子
々	鎌倉の空の高さや実朝忌	東京都	小嶋 知子
々	屯する鴉十余り実朝忌	川崎市	佐藤 公子
山川 幸子	段葛一直線に芽吹きけり	横浜市	西森 弘道
々	春愁戦に勝ちのなかりけり	千葉県	重田 忠雄
々	平成の終の実朝忌に参ず	鎌倉市	内山 美枝子